



全日本ロード<女子>先頭集団、左端が8連覇の沖

シクリスムエコーNo.120 2005年7月号



第8回全日本自転車競技選手権大会ロードレース…… 2



第74回全日本アマチュア競技選手権ロードレース … 5



第10回ジュニア全日本選手権ロードレース …… 6



第8回全日本自転車競技選手権大会トラックレース… 7

2005チョン・ジュ国際ジュニアサイクルロードレース… 11



競技大会結果 …………… 14

第6回チャレンジ・ザ・オリンピック …………… 15



「ロード競技部会」と「ジュニア強化育成部会」を設置 … 16

ツール・ド・ラビティビ 日本代表選手団 …………… 16

2005年 第3回トラック強化合宿 …………… 16

インフォメーション コーナー …………… 16

連盟の動き …………… 16

第8回全日本自転車競技選手権大会ロードレース



レース序盤のメイン集団、ディスカバリーの別府も中央に見える

6月25～26日、晴天に恵まれた静岡県
の日本サイクルスポーツセンター8km
コースにおいて、第8回全日本自転車競
技選手権ロードレース・第74回全日本ア
マチュア自転車競技選手権ロードレース・
第10回ジュニア全日本選手権ロード
レースが開催された。

初日はまず午前8時からジュニア全
日本がスタートし、佐伯(平工業高校)
と大園(北大和高校)のゴールスプリ
ントの末、佐伯がチャンピオンに輝いた。

そして午前11時、160kmで争われる
エリート男子がスタート。高温多湿の
条件下、サバイバルレースが展開され、
昨年の覇者田代(アンカー)とのゴール
スプリントの結果、野寺(シマノ)が初
の全日本ロードを制した。

2日目は午前9時にアマチュア選手権
(U23)、3分後に全日本女子がスタート
した。

女子は沖(NOBILI)が8連覇、U23は新
城(BSエスポワール)が最終周、中村(キ
ナンCCD)を振り切ってフィニッシュ
した。



先頭の二人、野寺(左)と田代



チャンピオン野寺



[競技結果]

第8回全日本自転車競技選手権ロードレース
(2005/6/25-26 静岡・日本CSC)

Elite Men (160km) 6/25

1	野寺 秀徳	シムル・シグ	5:05:55
2	田代 恭崇	ブリヂストンサイクル	5:05:56
3	真鍋 和幸	チームコッポ	5:06:06
4	広瀬 学	村CCD	5:06:29
5	岡崎 和也	NIPPO	5:06:58
6	狩野 智也	シムル・シグ	5:07:00
7	福島 晋一	ブリヂストンサイクル	5:08:18
8	飯島 誠	高村製作所	5:09:04
9	鈴木 雷太	ブリヂストン	5:09:55
10	柿沼 章	ミヤスバルレーシング	5:14:04



未永くお付き合いいただくために。



シマノ製品をご愛用いただきまして

ありがとうございます。

シマノではユーザーの皆様へ、当社製品と

未永くお付き合いいただけるよう、

各種補修用パーツをご用意しております。

- 製品についている取扱い説明書をご使用前に必ずお読みください。
- 機能保証のために分解できないパーツもあります。
- お近くの自転車店でご相談下さい。別途送料がかかる場合があります。
- 在庫状況により、品切れの場合もあります。予めご了承下さい。

SHIMANO

www.shimano.com

XBC001-A

集団を引く沖(中央)



2号橋付近で後続集団との差を確認する沖



単独ゴールの沖

[競技結果]

第8回全日本自転車競技選手権ロードレース
(2005/6/25-26 静岡・日本CSC)

Women (64km) 6/26

- | | | |
|----------|----------------|---------|
| 1 沖 美穂 | NOBILI | 2:14:51 |
| 2 唐見実世子 | カイパース | 2:16:59 |
| 3 真下 正美 | Sy-Nak SPECIAL | 2:20:51 |
| 4 西 加南子 | ミタハ 和パルイスミ | 2:20:51 |
| 5 森本 朱美 | 鳥取湖陵高校.教 | 2:21:06 |
| 6 豊岡 英子 | bicinoko.com | 2:21:47 |
| 7 中込由香里 | スチャライド | 2:24:25 |
| 8 小野山恵美 | C.ソウリ | 2:24:57 |
| 9 佐藤 智子 | 大霧小学校.教 | 2:26:05 |
| 10 村中恵美子 | トミヤリ | 2:26:37 |



第74回全日本アマチュア自転車競技選手権ロードレース



最終周、2号橋からの登りを行く、新城(右)と中村

[競技結果]

第74回全日本アマチュア自転車競技選手権ロードレース
(2005/6/26 静岡・日本CSC)

Under 23 (112km)

1	新城 幸也	BSIスポーツ	3:32:13
2	中村 誠	村ノCCD	3:32:29
3	根本 大地	法政大学	3:33:32
4	中島 康晴	鹿屋体育大学	3:35:50
5	秋山 英也	日本大学	3:36:58
6	後藤 辰徳	日本大学	3:37:24
7	松田 究	早稲田大学	3:37:57
8	増田 成幸	ベルキップ	3:38:19
9	秋山 尚徳	奈良大学	3:38:30
10	飯塚 航	中央大学	3:38:34



前半、積極的に逃げる島田だったが...



ゴール後の新城(左)と中村



チャンピオン新城

第10回ジュニア全日本選手権ロードレース



先頭を行く佐伯(左)と大園



ゴール後、喜ぶ佐伯

[競技結果]

第10回ジュニア全日本選手権ロードレース
(2005/6/25 静岡・日本CSC)

Junior Men (80km)

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 1 佐伯 翔 | 平工業高校 | 2:31:02 |
| 2 大園 健太 | 北大和高校 | 2:31:02 |
| 3 角 令央奈 | 日生第三高校 | 2:34:04 |
| 4 竹之内 悠 | 立命館宇治高校 | 2:34:07 |

- | | | |
|----------|---------|---------|
| 5 福田 真平 | 藤沢総合高校 | 2:34:09 |
| 6 伊藤 雅和 | 法政大第二高校 | 2:34:11 |
| 7 中村 弦太 | 広島国際学院 | 2:34:22 |
| 8 清水 真 | 日出暘谷高校 | 2:34:37 |
| 9 森田 大介 | 和歌山北高校 | 2:34:47 |
| 10 伊丹 健治 | 前橋育英高校 | 2:34:57 |



大園を振り切り、手を上げてゴールする佐伯

第8回全日本自転車競技選手権大会トラックレース

7月2日と3日の2日間、長野県松本市のかりがね運動公園内の自転車競技場において第8回全日本自転車競技選手権のトラックレースが開催された。

予報では危ぶまれた天気であったが、雨に見舞われることもなく、リニューアルされたばかりのバンクで、全プロ・全アマ・JOCカップの上位者を中心に、全日本チャンピオンの座を目指して競われた。

個人種目においては男子の西谷(個人追抜とポイントレース)と女子の太刀川(500mTTとスプリント)が昨年に引き続き、それぞれ2種目を制覇した。

また、チームスプリントにおいては、学連チームが惜しくも高体連チームに惜敗し2位に終わったが、シニア333mの日本新記録を更新した。



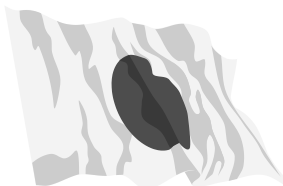
昨年に続き個人追抜優勝の西谷



チームスプリント優勝の高体連



チームスプリントでシニア日本新記録を出した学連



日本新記録

チーム・スプリント(333m×3)

男子シニア 1分04秒432 学連(佐藤 佑一、佐川 翔吾、内田 晃弘) 2005/7/3 長野・かりがね



男子スプリント1位の稲垣(左)と2位の前田

1kmTTのウイナー新田



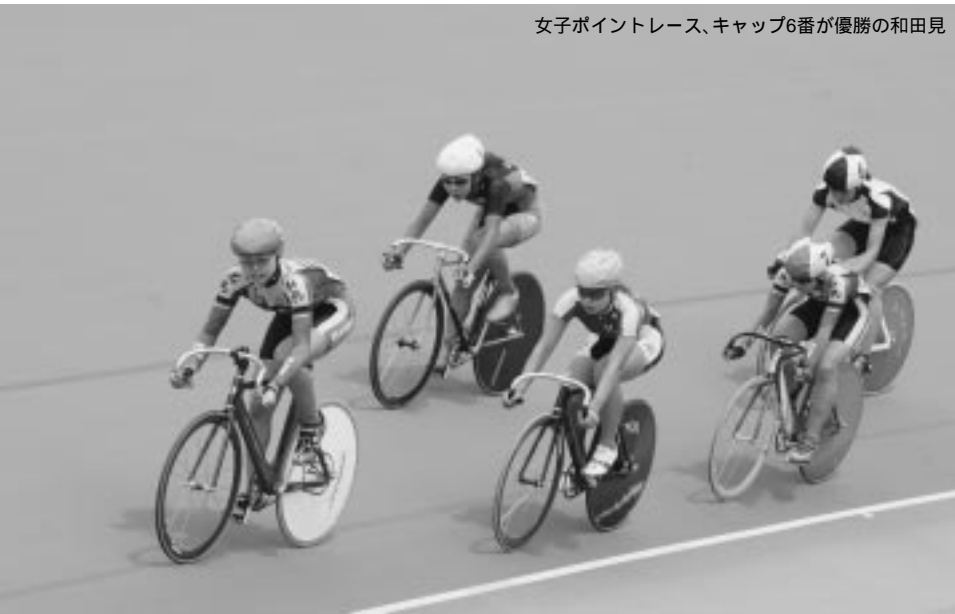
男子ポイント、右から2番目がウイナー西谷



女子スプリント1位の太刀川と惜しくも2位に甘んじた俣(手前)



女子ポイントレース、キャップ6番が優勝の和田見



女子個人追抜のウイナー村中



昨年に続き500mTT優勝の太刀川



太刀川

俣

遠藤

500mTT表彰



[競技結果]

第8回全日本自転車競技選手権大会トラックレース
(2005/7/2-3 長野・かりがね)

男子1kmタイムトライアル

- 1 新田 祐大 強化 JPCU福島 1:05.605
- 2 片折 亮太 埼玉 鳩山高校 1:07.496
- 3 吉田 将成 岐阜 日本大学 1:08.337
- 4 柘原 翔太 神奈川 横浜高校 1:09.196
- 5 桜井 太士 鳥取 中央大学 1:09.464
- 6 小川 幸樹 滋賀 瀬田工OB 1:09.543

男子スプリント

- 1 稲垣 裕之 JPCA JPCU京都
- 2 前田 義和 鹿児島 鹿屋体育大学
- 3 河端 朋之 鳥取 倉吉農業高校・教
- 4 佐藤 博紀 岩手 日本大学
- 5 園田 鉄兵 北海道 北海学園北見大学
- 6 伊原 陽平 兵庫 日生学園第三高校

男子4km個人追抜競走

- 1 西谷 泰治 愛知 愛三工業 4:49.590
- 2 明珍 周兵 福島 法政大学 4:57.998
- 3 川西 貴之 岐阜 日本大学 4:54.710
- 4 角 令央奈 兵庫 日生第三高 4:55.467
- 5 原田 和明 JPCA JPCU千葉 5:03.289

男子ケイリン

- 1 岡部 芳幸 JPCA JPCU福島
- 2 西川 親幸 JPCA JPCU熊本
- 3 屋良 朝春 沖縄 日本大学
- 4 西尾 孝政 埼玉 作州堂表具店
- 5 東矢 昇太 熊本 中央大学
- 6 園田 鉄兵 北海道 北海学園北見大学

男子ポイントレース(40km)

- 1 西谷 泰治 愛知 愛三工業 77 p
- 2 飯島 誠 強化 高村製作所 72 p
- 3 盛 一大 愛知 愛三工業 59 p
- 4 三瀬 光誠 山形 鹿屋体育大学 52 p
- 5 兼平 純 岩手 紫波総合高校 36 p
- 6 吉井 功治 JPCA 日本事務代行 35 p

男子チームスプリント

- 1 高体連 阿部・片折・中野 1:04.269
- 2 学連 佐藤・佐川・内田 1:04.432
- 3 沖 縄 仲松・屋良・喜納 1:06.092
- 4 鳥 取 福井・河端・桜井 1:06.433

男子4km団体追抜競走

- 1 学連 明珍・柴田・池浦・片山 4:25.041
- 2 岐 阜 青木・川西・中島・吉田 4:29.011
- 3 高体連 角・武田・石倉・柘原 4:33.870
- 4 JPCA 久米・窓場・山岸・岩崎 4:38.466

女子500mタイムトライアル

- 1 太刀川麻也 茨城 スパ-K7スプリント 37.212
- 2 佃 咲江 北海道 北海北見大学 37.424
- 3 遠藤 友子 大分 鹿屋体育大学 37.606
- 4 篠崎 新純 強化 明治大学 37.900
- 5 岡 希美 群馬 法政大学 38.002
- 6 沼部早紀子 栃木 順天堂大学 38.266

女子スプリント

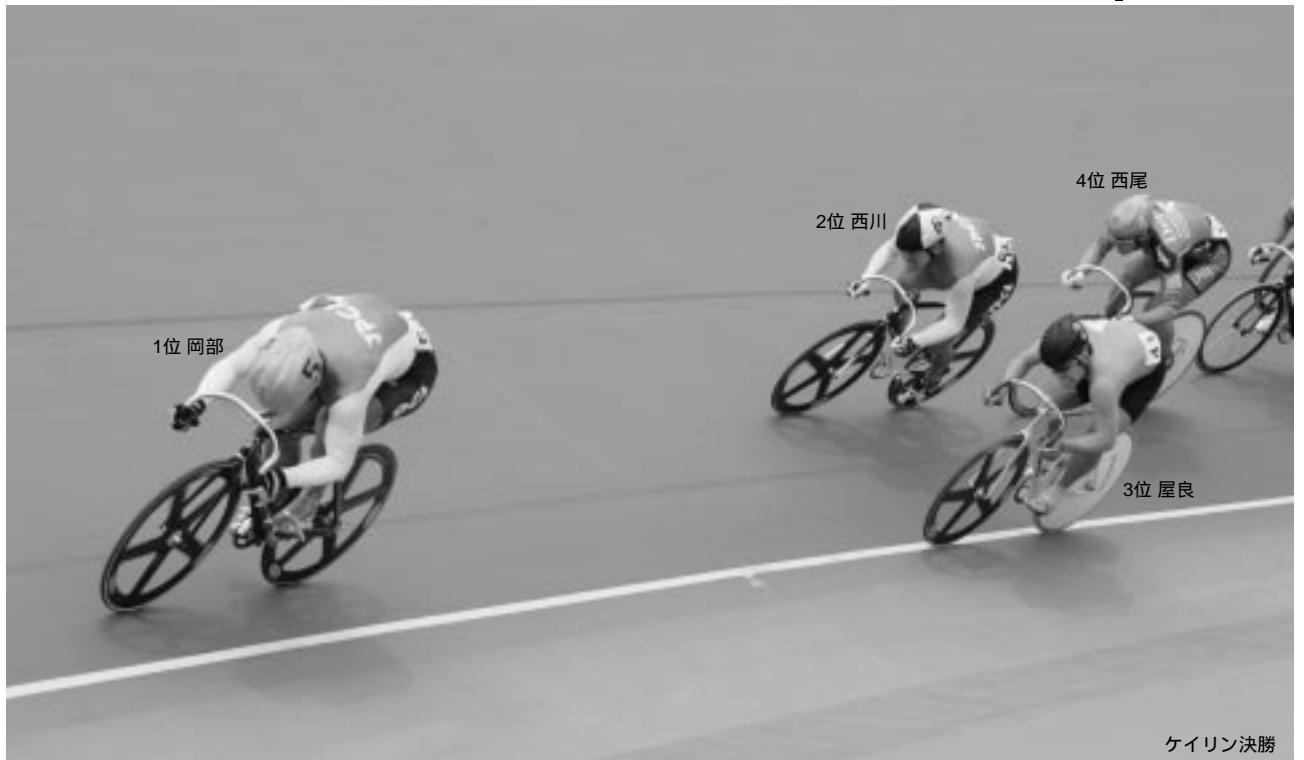
- 1 太刀川麻也 茨城 スパ-K7スプリント
- 2 佃 咲江 北海道 北海学園北見大学
- 3 遠藤 友子 大分 鹿屋体育大学
- 4 篠崎 新純 強化 明治大学
- 5 岡 希美 群馬 法政大学
- 6 佐藤 美香 大分 名桜大学

女子3km個人追抜競走

- 1 村中恵美子 東京 GSサキミツリ 4:05.957
- 2 萩原麻由子 群馬 鹿屋体育大 4:08.099
- 3 和田見里美 鳥取 倉吉東高校 4:12.092
- 4 宮崎 杏菜 大分 鹿屋体育大 4:12.288

女子ポイントレース(16km)

- 1 和田見里美 鳥取 倉吉東高校 18 p
- 2 萩原麻由子 群馬 鹿屋体育大学 18 p
- 3 宮崎 杏菜 大分 鹿屋体育大学 17 p
- 4 村中恵美子 東京 GSサキミツリ 12 p
- 5 石井 寛子 埼玉 明治大学 12 p
- 6 佐藤 美香 大分 名桜大学 -10 p



ケイリン決勝

2005チョン・ジュMBC国際ジュニアサイクルロードレース



6月10日(金)12:30に成田国際空港へ集合し、慌しく出国手続きを済ませ、アジアナ航空にて日本を出発した。仁川空港へ定刻通り到着し、入国手続きと手荷物受け取り等を済ませると19:00を過ぎていた。韓国車連のお迎えを受け、香港チームとチャーターバスに乗込んだ。途中高速のSAで軽く食事を摂り、バスに乗ること約5時間…。初日の宿泊地である東草市のハナコンドミニアムへ到着した時は、すでに翌日になっていた。初日の緊張と移動等の疲れで選手には疲労感が漂っており、翌日に備え荷解きもほどほどに選手達には早く休むよう伝えた。

翌日は7:00に起床、朝食後に自転車の組立と整備を行い、午前中はゆっくり休むことにした。時差も無いので特に時間を意識することもなく行動することができ、近場の遠征のありがたいところである。昼食後に軽くロードワークを2時間程度行い、翌日からのレースに備えた。

19:00より監督会議、チームカーのドライバーと打合せ等で時計は21:00をまわっていた。その後チームミーティングを行い「とにかく積極的に!特にレース終盤は組織的にレースを展開すること。ステージ前半で最低1勝はしよう!」とゲキを飛ばした。

レース初日の第1ステージは出走180名の選手たちを歓迎するかのよう天候に恵まれ、選手達も特に緊張した様子もなくリラックスした表情である。気になるコースはほぼフラットであるが、距離が75kmに短縮されたためハイスピードなレースが予想された。日本チームは、長距離選手の中でもス

プリント力のある選手が複数含まれており、初日から上位入賞の期待が持たれたが、右側レーン(片側)のみ使用、しかも反対車線では車が通行しており、日本のレースとの違いに選手達は少なからずストレスがあったのではない。

レースはスタート直後より、アタックの応酬でエスケープを試みる選手も多くいたが、最終的には100名以上での集団ゴールスプリントとなり、スプリント力に勝る市山研(神奈川:法政第二)が5位に入賞した。以下、9位 大久保光次(宮城:東北)1位、角令央奈(兵庫:日生第三)と続き、ステージ毎のチーム総合順位も1位を獲得し、初日から幸先の良いスタートが切ることができた。初日のステージを終え、すべての選手が勝利できる(通用する)ことを確信したようで、頼もしく感じるとともに翌日からのレースが楽しみとなった。

2日目第2ステージも晴天に恵まれた。プログラムのコース図には高低差が載っておらずアドバイスに苦慮したが、昨日同様にほぼフラットコースではないかということでスタートした。しかし、山岳コースとはいわれないまでもそれなりにアップダウンがあり選手を苦しめた。レースも前半からアタックが続いたが、各チームの反応が早く、どれも決定するまでには至らなかった。特に日本チームの動きに各チームが敏感に反応しているようで、安易には逃がしてくれそうにない状態であった。最終的には初日同様100名近くの選

手での集団ゴールスプリントで第2ステージを終了した。

日本勢の上位入賞はなかったが、大久保がレース中盤で落車に巻きこまれ集団から遅れるも、自力で集団に復帰するなどガッツある走りでレースを終え、第2ステージ終了時点で個人総合において5位につけた。第2ステージでは多くの選手がDNFとなり、チームのサポートが帰路につくしかない選択を迫られた。日本チームも例外ではなく、針谷が昨日の転倒の影響で身体が思うように動かずDNFとなりレースを去った。

3日目第3ステージも天候に恵まれ、メインスポンサーの1つである韓国MBC放送局前からスタートした。片側4車線の国道を止めてのパレードスタートは、チームカーから見ても壮観であった。中盤に湯浅徹(千葉:京葉工業)を含む3名がアタック。3名で先頭を交代しながらエスケープしていたが、その途中アクシデントが発生、落車した湯浅の身体のダメージが大きくDNFとなった。その後、残りの1名もメイン集団に吸収され、レースが振り出しに戻った。レース後半にはエース格の角が落車した選手を避けきれず乗り上げ転倒、ホイールが大破(後ブレーキも破損)し交換。タイムロスを回復させるため、メイン集団を猛追するも集団の姿を見ることはなかった。タイムアウトこそならなかったが、結果2分近く遅れ個人総合は厳しい状況となった。4名が集団をややリードしゴールスプリントに入り、メイン集団がその直後大集団でゴールスプリント。日本チームは大久保の12位が最高であった。





4日目も快晴、スポーツ公園を基点とした1周(20.2km)のクリテリウム3周にて行われた。予想通りアタックが繰り返されたが、どれも決定打にはいたらず集団にてゴールスプリント。昨日の貰い事故のストレスを晴らすかのように、角が内側に詰まりながらも最終スプリントで3位、大久保も6位に入賞した。エース格の市山は2周目にパンクのトラブルに見舞われメイン集団から遅れた。単独でゴールを果たしたが、個人総合は厳しい状況となった。昨日の落車により負傷した湯浅は、以後の大会のことも考慮し、釜山より成田へ帰国の途につくこととなった。

5日目第5ステージも天候にも恵まれた。地図から推測するに大なり小なり山は含まれているだろうと予測をたてレースに臨んだが、選手曰く「気になるほどではなかった」とのこと。レースは序盤より8名の選手がエスケープに成功しレースをリード、一時メイン集団の視界から消えた。しかし、ゴールに近づくにつれメイン集団のスピードが上がり、残り5kmを過ぎたところでトップ集団を吸収し、80名近くの集団ゴールスプリントとなった。日本チームにも期待が持たれたが、ゴール付近に車が駐車されているなど、いつもと違う環境に全力でスプリントという訳にはいかないようであった。しかしながら入賞こそならなかったが日本勢は上位でゴールし、ステージ別のチーム総合順位は初日に続いて1位を獲得した。初日より続いていたゴール後の移動がなくなり、選手の負担はかなり軽減された。

6日目第6ステージも天候に恵まれた。スタート時の気温もさほど高くなくコンディションは良かった。レース

集団に合流。13名でのゴールスプリントとなった。結果、大久保が6位で、後続のメイン集団のゴールスプリントは市山が制し、日本チームとして組織的なレースが展開でき、収穫の多いステージであった。欲を言えばトップ集団にもう1名送り込みたかったが…。ステージ別のチーム総合順位も、前日に引き続き1位を獲得した。

7日目最終ステージ(第7)も天候に恵まれ、今大会は本当に幸運であった。個人総合で大久保が31秒差、チームの総合順位も25秒差であり、フィナーレに相応しく、十分に逆転優勝の可能性が残されているステージであった。パレードスタート直後より角が様子見のアタックを試みるも、通算タイムで上位のチームが敏感に反応していた。序盤より幾度となくアタックが繰り返されたが、どれも決定打には至らなかった。しかし、残り30kmを切ったところでチーム総合1位のカザフスタンチーム1名を含む3名がエスケープに成功し、1分30秒近くのアドバンテージをキープしたままゴールを目指した。ゴールに近づくにつれ先頭集団とメイン集団の距離は縮まり、ゴールまで1kmを切ったところ100mまでに迫っていた。3名で決まるかに思われたが、ゴール手前の交差点を左折するはずが痛恨のコースミス。一瞬にして優勝争いから消えた。メイン集団前方には日本勢も控えており、ボーナスタイムで逆転の期待が持たれたが、結果、市山の5位が最高であった。

ステージ毎のチーム順位も3日連続で1位を獲得し、通算4回(全7ステージ中4ステージ優勝)の受賞となった。レース後は、慌しく荷物整理と自転車の梱包作業を行い、表彰式、閉会式を終

え全日程が終了し、帰国の途についた。今回はメカニック不在(コーチ兼任)であったが、メカトラブルもなく、日本製品の素晴らしさ(信頼性)を改めて実感した。また、タイヤについてもグレードが高いものを使用していたため、落車を除くパンクは1件であった。ただ、所属が異なるチームより選手を預かりチームを編成しているため、以後の遠征時はトラブル時の器材面での互換性(メンテナンス等の都合)を考慮した上で、最低限のスペアパーツ持参で参加しないと緊急時の対応は厳しいと思われる。

え全日程が終了し、帰国の途についた。

今回はメカニック不在(コーチ兼任)であったが、メカトラブルもなく、日本製品の素晴らしさ(信頼性)を改めて実感した。また、タイヤについてもグレードが高いものを使用していたため、落車を除くパンクは1件であった。ただ、所属が異なるチームより選手を預かりチームを編成しているため、以後の遠征時はトラブル時の器材面での互換性(メンテナンス等の都合)を考慮した上で、最低限のスペアパーツ持参で参加しないと緊急時の対応は厳しいと思われる。

ステージ前半はレース終了後の移動があるため、食事面の段取りが大変であった。経費節約は勿論であるが、選手の身体のことを考慮し、食事(朝夕)は基本的に自炊でまかなった。今回、生徒引率の立場でありながら伊藤先生(昭和第一)と寺本トレーナーには、食事面をはじめとする選手のサポートに大変ご尽力頂き本当に感謝である。少数であってもこうした志あるスタッフの上に今回の結果が残せたのだと確信している。ジュニアであれエリートであれナショナルチームを編成する以上は、このようなことも踏まえて万全の態勢で参加できるように早期からの計画の必要性を感じた。

また、指導者として各国の選手を分析すれば、世界から見るとレベルの低いアジア圏の選手が参加しての大会ではあったが、正直「体の完成度が違う…」というのが素直な感想である。自転車の競技者として「自転車に乗る前にやるべきこと」にしっかりと時間をかけているように感じた。ジュニアレベルでさえ、日本人選手との絶対的な身体的能力の差を感じ、アジアレベルでも遅れをとっているようにも感じた。競技運営面についても見習うべき事項も多くあった。目に見えるところで「準備、撤収の早さ」である。競技中は当然の如く各々のセクションを受け持つが、レース前の設営、ギヤチェック等、競技以外の部分についても手際よくこなしていた。1つのセクションのみでなく、すべてのスタッフがやるべきことを心得ているような感じであった。

今回の海外遠征にコーチとして帯同させて頂き、私自身良い経験になるとともに、海外で日本チームが戦うため

の課題も多く見つけることができた。選手の身体的能力や技術、戦術はもちろんのこと、チームをまとめる立場としての言葉(コミュニケーション能力)の問題、レースプラン、チームとしてのサポート態勢、それらを少しでも「世界」へ近づけるためには、選手のみならずコーチの海外経験の必要性も感じた。海外よりコーチを招聘するのではなく、指導者(スタッフ)を養成するための海外派遣事業の必要性を強く感じた。

目先の選手だけでなく、次世代の選手の育成に着手しなければ、おそらく日本は取り残されることは間違いない。選手の育成に携わる一人として、また自転車競技のファンの一人として日本の自転車競技界の発展を期待している。ジュニア層の系統立てた組織的な育成こそ、現在の日本の自転車界に求められている最重要課題であり、その実現こそが真のナショナルレベルでの強化事業であることを確信している。

(高体連強化委員 中田 将次)

[競技結果]

第1ｽﾀｰｼﾞ 個人		
1	SALLE Harrif	MAS 1:40:44
2	KIM Doo Yong	KOR
3	AWANG Azizul Hasni	MAS
5	市山 研	JPN
9	大久保光次	JPN
11	角 令央奈	JPN

50	続谷 利次	JPN	
79	湯浅 徹	JPN	
132	針谷大二郎	JPN	1:42:33
第1ｽﾀｰｼﾞ 団体			
1	日本	JPN	5:02:12
2	SEOUL PH-H.S	KOR	
3	ｽﾚｰｼﾞ	MAS	
第2ｽﾀｰｼﾞ 個人			
1	SEO Joon Yong	KOR	2:53:01
2	KUPESHOV Berik	KAZ	
3	JANG Chan Jae	KOR	
17	大久保光次	JPN	2:53:26
37	続谷 利次	JPN	
49	湯浅 徹	JPN	
53	市山 研	JPN	
86	角 令央奈	JPN	2:54:09
	針谷大二郎	JPN	DNF
第2ｽﾀｰｼﾞ 団体			
1	UIJEONGBOO H.S	KOR	8:39:53
2	ｶﾞﾌﾞｽﾀﾝ	KAZ	
3	DONGHWA H.S	KOR	
11	日本	JPN	8:40:18
第3ｽﾀｰｼﾞ 個人			
1	YOO Gi Hong	KOR	1:45:16
2	KIM Young Wook	KOR	
3	LEE Byeong Hwan	KOR	
12	大久保光次	JPN	1:45:22
16	市山 研	JPN	
26	続谷 利次	JPN	
81	角 令央奈	JPN	1:48:03
	湯浅 徹	JPN	DNF
第3ｽﾀｰｼﾞ 団体			
1	SEOUL PH-H.S	KOR	5:15:54
2	ULSAN NONGSO H.S	KOR	5:16:00
3	GAPYEONG H.S	KOR	
5	日本	JPN	5:16:06

第4ｽﾀｰｼﾞ 個人		
1	YOO Ji Hong	KOR 1:30:45
2	KWAK Hyun Myung	KOR
3	角 令央奈	JPN
6	大久保光次	JPN
38	続谷 利次	JPN
80	市山 研	JPN 1:36:12
第4ｽﾀｰｼﾞ 団体		
1	ULSAN NONGSO H.S	KOR 4:32:15
2	CHANGWON M.T H.S	KOR
3	日本	JPN
第5ｽﾀｰｼﾞ 個人		
1	AWANG Azizul Hasni	MAS 2:25:20
2	LEE Jin Woo	KOR
3	SEO Joon Yong	KOR
15	市山 研	JPN
16	続谷 利次	JPN
17	角 令央奈	JPN
24	大久保光次	JPN
第5ｽﾀｰｼﾞ 団体		
1	日本	JPN 7:16:00
2	台湾	TPE
3	ｽﾚｰｼﾞ	MAS
第6ｽﾀｰｼﾞ 個人		
1	HWANG In Hyuk	KOR 2:15:29
2	YOO Ji Hoon	KOR
3	LEE Jin Woo	KOR
6	大久保光次	JPN
14	市山 研	JPN 2:17:35
20	続谷 利次	JPN
29	角 令央奈	JPN
第6ｽﾀｰｼﾞ 団体		
1	日本	JPN 6:50:39
2	YANGYANG H.S	KOR
3	SEOUL PH-H.S	KOR
第7ｽﾀｰｼﾞ 個人		
1	YOO Ji Hoon	KOR 2:55:27
2	JANG Chan Jae	KOR
3	CHU Fan Ilsin	TPE
5	市山 研	JPN
8	大久保光次	JPN
16	角 令央奈	JPN
29	続谷 利次	JPN
第7ｽﾀｰｼﾞ 団体		
1	日本	JPN 8:46:21
2	MOKCHUN H.S	KOR
3	UIJEONGBOO H.S	KOR
個人総合成績		
1	KUPESHOV Berik	KAZ 15:26:02
2	YOO Ji Hoon	KOR 15:26:07
3	YOO Gi Hong	KOR 15:26:17
5	大久保光次	JPN 15:26:33
17	続谷 利次	JPN 15:28:39
59	角 令央奈	JPN 15:31:59
63	市山 研	JPN 15:34:06
団体総合成績		
1	ｶﾞﾌﾞｽﾀﾝ	KAZ 46:23:26
2	SEOUL-PH H.S	KOR 46:23:39
3	GAPYEONG H.S	KOR 46:23:45
4	日本	JPN 46:23:51



競技大会 結果

大会名、チーム名等については略して記載

第39回全日本実業団西日本自転車競技大会 (6/18-19 大阪・関西CSC 400m)

男子1kmタイムトライアル

- 1 篠原 龍馬 マリゴ-ルド T.T 1:08.496
- 2 山中 貴雄 マリゴ-ルド T.T 1:08.544
- 3 芳野 匠 イキップ ユーレーシング 1:08.643
- 4 三谷 将太 ストラダレーシング 1:08.833
- 5 篠原 英夫 マリゴ-ルド T.T 1:09.452
- 6 三谷 政史 ストラダレーシング 1:09.741

男子スプリント

- 1 山中 貴雄 マリゴ-ルド T.サイクルW
- 2 篠原 龍馬 マリゴ-ルド T.サイクルW
- 3 篠原 英夫 マリゴ-ルド T.サイクルW
- 4 守谷 陽介 Z-1MEDALIST.RC
- 5 柏野 智典 Z-1MEDALIST.RC
- 6 在本 直樹 Z-1MEDALIST.RC

男子ケリソ

- 1 三谷 将太 ストラダレーシング
- 2 沢田 淳 Z-1MEDALIST.RC
- 3 三谷 政史 ストラダレーシング
- 4 菊池 誠晃 朝日大学
- 5 岡村 敬之 ティューロ
- 6 在本 直樹 Z-1MEDALIST.RC

男子4km個人追抜競走

- 1 西谷 泰治 愛三工業レーシング 4:59.960
- 2 盛 一大 愛三工業レーシング 5:14.402
- 3 増田 智仁 朝日大学 5:00.238
- 4 清水 良行 Z-1MEDALIST 5:05.478
- 5 若槻 彰隆 朝日大学 5:06.583
- 6 山田 哲治 マリゴ-ルド T.T 5:08.071

男子エリミネーション

- 1 和田 治恭 天狗党
- 2 佐野 伸弥 チームハイクニレーシング
- 3 河崎 恵治 岩井商会レーシング
- 4 木野瀬善弘 シェルドリキョク
- 5 東島 信行 カガワAS.ケテザイン
- 6 松村 友和 ムスチエール

男子ホクトレース (30km)

- 1 盛 一大 愛三工業レーシング チーム 49 p
- 2 西谷 泰治 愛三工業レーシング チーム 39 p
- 3 秋田 謙 愛三工業レーシング チーム 34 p
- 4 武藤 大輔 マリゴ-ルド T.サイクルW 32 p
- 5 鷲田 幸司 BALBARACING 26 p
- 6 吉井 功治 AMINOVITAL-LAS 21 p

男子マテイツ (20km)

- 1 愛三工業 西谷・盛 23 p
- 2 LASレーシング 三木・吉井 (-1)15 p
- 3 NEX 向川・森 (-1)10 p
- 4 カガワAS 東島・藤田 (-3)7 p
- 5 ハイクニカ 郡山・平林 (-6)0 p

男子チームスプリント

- 1 マリゴ-ルド 篠原英・篠原龍・山中 1:16.526
- 2 Z-1MEDALIST 在本・柏野・守谷 1:20.049
- 3 イキップ ユー 木村・栗田・芳野 1:20.232
- 4 愛三工業 秋田・西谷・盛 1:22.585
- 5 ムスチエール 伊藤・今津・坂本 1:21.956
- 6 岩井商会 河崎・小谷・辻本 1:23.041

男子4km団体追抜競走

- 1 愛三工業 秋田・西谷・盛 4:37.430
- 2 朝日大学 中島・増田・若槻・和田 4:39.327
- 3 マリゴ-ルド 阿部・武藤・矢野・山田 4:41.177
- 4 Z-1MEDALIST 小西・清水・鈴木・山口 4:53.686
- 5 ハイクニカ 上田・郡山・佐野・平林 4:59.561

女子500mタイムトライアル

- 1 川満 佳子 岩井商会レーシング 38.267
- 2 大塚 沙織 キャットアールレーシング 40.495
- 3 三井 由香 ムスチエール 41.083
- 4 戸田 尚由 フォトンレッド RT 41.471
- 5 小谷 翠 NCFR 41.498
- 6 越田恵美子 PEACE SPORT 41.673

女子3km個人追抜競走

- 1 大塚 沙織 キャットアールレーシング 4:13.383
- 2 小谷 翠 NCFR 4:25.419
- 3 梶原 加名 ムスチエール 4:36.587
- 4 谷村祐美子 ムスチエール 4:39.700

女子エリミネーション

- 1 越田恵美子 PEACE SPORT
- 2 小谷 翠 NCFR
- 3 戸田 尚由 フォトンレッド RT
- 4 三宅 悠里 天狗党

MTBジャパンシリーズ J3三重4日間 (2005/6/25-26 三重・桑名)

男子 (250m)

- 1 栗瀬 裕太 大阪 TREK 29.918
- 2 三瓶 将廣 神奈川 STAATS 29.993
- 3 古性 優作 大阪 UN AUTHO. 28.477
- 4 黒田 淳 神奈川 MX/HARO 29.227
- 5 増田 直樹 滋賀 UN AUTHO. 28.106
- 6 福富 哲也 栃木 KHS JAPAN 29.484
- 7 黒川 優樹 東京 COVE/カガワ 30.102
- 8 高松 健二 MX・HARO 30.057
- 9 宮本祐太郎 神奈川 グラハイト 30.001
- 10 阿藤 寛大 大阪 1-JYO/CAN. 30.011

女子 (250m)

- 1 三輪 郁佳 広島 33.193
- 2 飯塚 朋子 大阪 ROLL-OUT 35.279
- 3 堀田 直子 愛知 MOVEレーシング 37.130

第39回全日本実業団西日本サイクリングロードレース (2005/7/3 広島・森林中央公園)

BR-1 (110.7km)

- 1 狩野 智也 JPCA シェルドレーシング 2:56:09
- 2 土井 雪広 山形 シェルドレーシング 2:56:31
- 3 田中 光輝 愛知 愛三工業 2:56:35
- 4 中川康二郎 JPCA ミヤタビル 2:56:43
- 5 野口 忍 京都 かつCCD 2:56:43
- 6 大内 薫 JPCA シェルドレーシング 2:56:44
- 7 西村 拓也 京都 ミヤタビル 2:56:44
- 8 阿部 良之 JPCA シェルドレーシング 2:57:05
- 9 柿沼 章 栃木 ミヤタビル 2:58:26
- 10 廣瀬 敏 JPCA 愛三工業 2:59:26

BR-2 (61.5km)

- 1 中島 康晴 福井 鹿屋体大 1:37:51
- 2 恵阿珠 朝 福島 スターバード 1:37:51
- 3 寺本 道彦 島根 ムスチエール 1:37:51
- 4 細川 倫央 京都 かつCCD 1:37:51
- 5 神野 勝 広島 チーム・チェロ 1:37:53
- 6 末本 大克 広島 MIZUHO 1:37:55
- 7 小室 雅成 埼玉 ダイワボウシステムズ 1:37:58
- 8 岩藤 司朗 山口 ダイワボウシステムズ 1:38:00
- 9 猪岡 章人 奈良 Zippy/カガワRC 1:38:46
- 10 村上 純平 山形 鹿屋体大 1:41:55

BR-3 (36.9km)

- 1 清水 良行 岡山 Z-1MEDALIST 58:45
- 2 清水 英樹 鳥取 CA GOODW. 58:46
- 3 勝沼 麗生 埼玉 スターバード 59:05
- 4 永良 大誠 兵庫 グラフ・バード 59:11
- 5 櫻井 一輝 静岡 SPADE・ACE 59:11
- 6 飯田 晋一 静岡 SPADE・ACE 59:12
- 7 曾田 晴夫 島根 ムスチエール 59:12
- 8 村上 卓穂 香川 サクカワ FET 59:12
- 9 松本 真行 滋賀 FUKADA 59:12
- 10 都築 正浩 愛知 VERDAD 59:13

女子 (36.9km)

- 1 山口 亮子 愛知 かつCCD 1:04:35
- 2 豊岡 英子 広島 bicinoko.com 1:06:43
- 3 酒井 真清 大阪 Testach-R. 1:07:00
- 4 加藤 紀衣 大阪 Testach-R. 1:09:01
- 5 坂田 佳子 兵庫 POLPO 1:11:16

第36回全日本実業団東日本自転車競技大会 (2005/7/9-10 長野・かりがね運動公園 自転車競技場 333.33m)

男子1kmタイムトライアル

- 1 水澤 耕一 スターバード 1:09.349
- 2 後藤 彰仁 朝日大学 1:09.623
- 3 白岩 大助 チーム・チェロ 1:09.720
- 4 福富 義雄 リアルTBC 1:09.794
- 5 村松 俊弥 朝日大学 1:09.881
- 6 中島 和夫 朝日大学 1:10.018

男子スプリント

- 1 湯原 正行 チームサイクルライド
- 2 後藤 彰仁 朝日大学
- 3 小林 信晴 天狗党
- 4 西尾 孝政 ティューロ
- 5 鈴木 庸之 Soul Bicycle 弥彦
- 6 酒井 洋太 トヨタ三州観光光沖繩

男子ケリソ

- 1 西尾 孝政 ティューロ
- 2 河村 雅章 LUBRIFEELER イビル
- 3 福富 義雄 リアルTBC
- 4 近藤 寛央 LUBRIFEELER イビル
- 5 大木 卓也 スターバード・バイズミ
- 6 駒井 大輔 TSP

男子4km個人追抜競走

- 1 中島 和夫 朝日大学 5:00.150
- 2 明珍多久雄 チーム・チェロ 5:04.167
- 3 増田 智仁 朝日大学 5:09.029
- 4 三木 哲也 LASレーシング チーム 5:13.786
- 5 飯野 嘉則 スターバード 5:08.097
- 6 ニル ミラー チーム・チェロ 5:08.267

男子エリミネーション

- 1 善波 昭 ティューロ
- 2 北川 光治 ミソノレーシング チーム

3	水尾 和孝	ミヤマビルレーシングチーム	
4	斯波 貴介	ミノビルレーシングチーム	
5	高橋 仁	チーム・チェンピ	
6	上田 隆	チームハイテクレーシング	
男子ポイントレース			
1	朝倉 佳弘	LUBRIFEELP イタルズ	10 p
2	津末 浩平	ミヤマビルレーシングチーム	8 p
3	明珍多久雄	チーム・チェンピ	6 p
4	柴田 一樹	朝日大学	5 p
5	綾部 勇成	ミヤマビルレーシングチーム	4 p
6	相川 永吾	ミヤマビルレーシングチーム	3 p
男子チームスプリント			
1	チーム・チェンピ	高橋・飯田・白岩	1:07.095
2	栃木クラブ	古川・斉藤・塩澤	1:07.607
3	朝日大学A	後藤・村松・鷺原	1:07.744
4	Soul Bicycle	白倉・鈴木・武田	1:08.406
5	朝日大学B	福山・山田・高木	1:08.180
6	ミヤマビルレーシング	水澤・大木・飯野	1:08.663
男子4km団体追抜競走			
1	朝日大学	若槻・中島・増田・和田	4:45.879
2	ミヤマビル	綾部・高野・津末・水尾	4:52.378
3	LASレーシング	柳沢・工藤・浦門・三木	4:59.813
4	チーム・チェンピ	高橋・飯田・明珍・白岩	5:00.323
5	サコ三州	川畑・酒井・小林・黒木	5:03.448
6	ハイテク	上田・鬼形・佐野・郡山	5:06.506
女子500mタイムトライアル			
1	三井 由香	ハイテクレーシング	40.201
2	戸田 尚由	フィットナード RT	40.995
3	和地 恵美	たかだフルドレーシング	41.193
4	中山 朋子		41.475
5	三宅 悠里	天狗党	41.729

6	小谷 翠	NCFR	42.806
女子ケイリン			
1	小谷 翠	NCFR	
2	中山 朋子		
3	三宅 悠里	天狗党	
4	林 奈保美	ミヤマビルレーシング	
5	三井 由香	ハイテクレーシング	
6	戸田 尚由	フィットナード RT	
女子3km個人追抜競走			
1	小谷 翠	NCFR	4:29.023
2	中山 朋子		4:33.795
3	和地 恵美	たかだフルド	4:35.970
4	谷村祐美子	ハイテクレーシング	4:44.937
5	林 奈保美	ミヤマビルレーシング	4:49.959
2005ジャパンシリーズ J1 DH#3, XC#4 (2005/7/9-10 秋田・田沢湖)			
CX男子エリート (31.2km)			
1	色川 浩樹	茨城 SPECIA.	2:16:49.48
2	小笠原崇裕	長野 SUBARU	2:17:05.00
3	野口 忍	京都 TREK	2:19:36.18
4	松本 駿	長野 TREK	2:21:24.79
5	山本 和弘	長野 マキシキヤノン	2:22:13.33
6	山本 幸平	新潟 アウトドア専	2:22:39.50
7	小野寺 健	京都 TREK	2:26:45.03
8	辻浦 圭一	長野 プリンス	2:30:39.63
9	山田大五朗	福岡 FUKUSAYA	2:31:37.88
10	竹之内 悠	京都 パナソニック	2:32:08.14
CX女子エリート (15.6km)			
1	片山 梨絵	神奈川 TREK	1:24:21.47

2	田近 郁美	岐阜 GOD HILL	1:26:56.34
3	田崎 綾	千葉	1:32:05.68
4	深井 薫	大阪 GaryFisher1	1:33:44.05
5	中込由香里	長野 SY-Nak	1:37:38.60
6	山本 萌	北海道 尚志学園	1:43:38.66
7	志村みち子	埼玉 あづみの	1:47:27.82
8	大塚 香	北海道 キャンデー	1:49:30.37
9	信賀 直子	埼玉 OLDNEW1	5:52:51.02
DH男子エリート (1.8km)			
1	井手川直樹	広島 G Cross	2:57.154
2	永田 隼也	神奈川 AVEL KAMI.	2:58.871
3	内嶋 亮	東京 G Cross	2:59.457
4	丸山 弘起	長野 マキシキヤノン	3:00.660
5	竹本 将史	埼玉 プリンス	3:00.994
6	向原 健司	大阪 KUWAHARA	3:03.016
7	安達 靖	愛知 Ikuzawa	3:03.555
8	丸山由起夫	愛知 MOM&POPS3	3:05.160
9	三宅 和之	埼玉 KHS重力	3:05.406
10	塚本 岳	長野 MX/MONG.	3:06.479
DH女子エリート (1.8km)			
1	末政 実緒	兵庫 ぴんぐ	3:28.361
2	猪俣 浩子	神奈川 KOOWHO	3:38.842
3	渡辺 キリ	長野 Cannondale	3:40.263
4	福本 弘佳	兵庫 輪娛ロード	3:46.387
5	池田 恭子	東京 MAXXIS	3:52.510
6	飯塚 朋子	大阪 ROLL-OUT	3:57.296
7	田崎 綾	千葉	4:10.124
8	富田 敬子	奈良 TECH IN	4:10.325
9	服部 良子	神奈川 風魔横浜	4:14.715
10	大西 雅美	兵庫 YRS-ANC	4:33.540

第6回チャレンジ・ザ・オリンピック



[競技結果]

第6回チャレンジ・ザ・オリンピック

(2005/7/10)

静岡・日本CSC 250mトラック)

男子200mタイム TT

1	渡邊 一成	10.516
2	金子 貴志	10.601
3	成田 和也	10.630
4	及川 裕奨	10.649
5	永井 清史	10.671
6	榊枝 輝文	10.716

女子200mタイム TT

1	太刀川 麻也	12.363
2	石井 寛子	12.391
3	沼部 早紀子	12.529

4	佃 咲江	12.557
5	岡 希美	12.662
6	篠崎 新純	12.716

男子250m TT

1	永井 清史	18.396
2	濱田 浩司	18.444
3	金子 貴志	18.455
4	成田 和也	18.476
5	渡邊 一成	18.579
6	伊藤 世哉	18.582

女子500m TT

1	佃 咲江	37.201
2	太刀川 麻也	37.333

3	篠崎 新純	37.491
4	遠藤 友子	37.684
5	岡 希美	37.820
6	川満 佳子	38.492

男子1km TT

1	藤田 竜矢	1:04.836
2	稲垣 裕之	1:04.972
3	及川 裕奨	1:05.108
4	新田 祐大	1:05.393
5	村上 博幸	1:05.825
6	武井 大介	1:05.899

女子3km TT

1	大塚 沙織	4:05.360
---	-------	----------

2	和田見 里美	4:11.452
3	石井 寛子	4:13.320
4	森 智恵美	4:21.258
5	堀 友紀代	4:23.888
6	小淵 千恵	4:24.554

男子3km TT

1	飯島 規之	3:33.032
2	西村 行貴	3:34.761
3	川西 貴之	3:35.411
4	房州 輝也	3:38.031
5	太田 貴明	3:38.253
6	柴田 祐也	3:40.257



選手強化委員会に「ロード競技部会」と「ジュニア強化育成部会」を設置

選手強化委員会の中に「ロード競技部会」と「ジュニア強化育成部会」を新たに設置することが、平成17年6月9日開催の平成17年度第1回選手強化本部会に於いて正式に決定されました。各部会の主な活動の目的、部会員は以下の通りとなります。

ロード競技部会

「ロード競技部会」は、ロード競技の強化・普及に関する事項について専門的に検討し、ロード強化指定選手の選考及び強化、国際競技大会等への派遣計画及び派遣に関する事等について選手強化委員会に提言する事を目的として設置された。

<部会長>高橋 松吉 <部会員>坂東 晃・浅田 顕・大門 宏・栗村 修・高村 精一・三浦 恭資・中根 賢二・小野 絹代
ジュニア強化育成部会

「ジュニア強化育成部会」は、ジュニア選手の強化・育成に関する事項について専門的に検討し、ジュニア強化指定選手の選考及び強化・育成、国際競技大会等への派遣計画及び派遣に関する事等について選手強化委員会に提言することを目的として設置された。

<部会長>山口 清孝 <部会員>折本 裕樹・井上 由大・市川 雅敏・高橋 松吉・田畑 昭秀

ツール・ド・ラピティビ 日本代表選手団

大会名 ツール・ド・ラピティビ
開催場所 カナダ・ケベック
大会期間 2005年7月19日～24日
派遣期間 2005年7月16日～27日
代表選手団
監督 福田 公生(JCF強化コーチ)
コーチ 中田 将次・百々 敦史
選手 市山 研(神奈川県)・角 令央奈(兵庫)
渡邊 正光(福島)・大久保光次(宮城)
針谷大二郎(栃木)・続谷 利次(東京)

2005年 第3回トラック強化合宿

2005年第3回強化合宿が福島県泉崎で6月19日から25日に行われた。今回の合宿は梅雨入り後で天候が心配されたが、雨も降らず集中して1週間のトレーニングが出来た。

98年ナショナルチーム発足以来、オリンピックイヤーを除けば、これまでの合宿は単発でしかも3～5日間程度の短期間の合宿しか出来ず継続的な強化は出来なかった。しかし世界の強豪と戦う為には期分けに則り、継続的な強化が何より必要とされる。今年度からは世界選、終了後から来シーズンに備えナショナルチームの核となる選手を継続して毎月7日間の合宿を実施し強化を行っている。(班目)

参加選手:成田、及川、渡邊、新田、早坂

インフォメーションコーナー

'05ツール・ド・北海道国際大会(ステージ・ロードレース)海外6チーム、国内14チームが参加の予定
今年で19回を数えるUCI公認の大会(UCIアジアツアー2.2)で上位者にはUCIアジアツアーポイントが与えられる。
6日間の総走行距離は790km。北海道道東から道央を駆け抜ける大自然を舞台に熱い戦いが繰り広げられる。
9月14日 プロロード(帯広市)・15日 第1ステージ(帯広市～阿寒町)・16日 第2ステージ(弟子屈町～本別町)
17日 第3ステージ(池田町～静内町)・18日 第4ステージ(門別町～江別町)・9月19日 第5ステージ(札幌市)
Vittoria Japan がオフィシャルサプライヤーに
イタリアのタイヤメーカー「Vittoria(ビットリア)の日本総代理店(有)Vittoria Japan(本社・名古屋)と、本連盟が
サプライヤー契約を結んだ。契約内容は、主にトラック・ロードのナショナルチームへのタイヤ提供となる。

連盟の動き(6月中旬～7月中旬)

6月19日	トラック・エリート男子強化合宿	於:福島・泉崎(～25日)
24日	第1回競技運営委員会	於:静岡・日本CSCサイテル
25日	第2回ロード競技部会・第1回ジュニア強化育成部会	於:静岡・日本CSCサイテル
28日	ジャパンカップ推進委員会・実行委員会	於:栃木・宇都宮
7月4日	ロード・ナショナルチーム強化合宿(高地トレーニング)	於:中国・昆明(～24日)
9日	トラック・エリート男子強化合宿	於:静岡・日本CSC(～15日)
9日	トラック・ジュニア男子強化合宿	於:静岡・日本CSC(～13日)
10日	第3回選手強化委員会・スタッフ部会合同会議	於:静岡・日本CSCサイテル



シクリスムエコー No.120 2005年7月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩楯 昭一

編集人/加藤 昭

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508

URL <http://www.jcf.or.jp/>

JCF協賛スポンサー



森永製菓株式会社健康事業部



株式会社サテライトジャパン